News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801 U.S.A.
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成２５年　12月 7日　No. 16

発行責任者：校長　櫻井郁男

よりよい授業をめざして

学校は今年度の大きな行事も終え、授業巡視・研修会・研究授業等を毎授業日に実施しています。本校の研修は、私たち派遣教員が、本校教員(以後「先生方」と記します)の指導力向上を図る大切な機会となっております。また、この機会以外にも日々の指導について〈教科指導上の留意点・問題点等〉の報告があり、3名の派遣教員が分担して先生方へお返事をしています。今回は先生の了解を得て、一部を紹介させていただきます。

国語‥‥子どもたちにとって、作文は限られた語彙とはいえ、何とか書けても、状態ややり方を文章で説明するのは難易度が高い。「2個のコップの底と底をぴったりと合わせてテープで貼りつける。」これだけのことでも、まずコップの「底」という言葉を知らない。上だの下だの後ろだのと言い出す。「～と～を合わせる」の言葉も出ないし、助詞の「と」と「を」を間違う子もいる。というわけで説明書を書かせるのは『大変』の一言。教科書の「剣玉の作り方」は、　説明文の書き方の4つのコツを確認しながら読み、その後教科書を見ないで書く練習をした(工程は
デモンストレーションをして見せて)。その結果、先の「2個のコップ‥‥‥」の描写が最もできなかった。

次に、4工程でできるカメのおもちゃの作り方を無声で1工程ずつデモンストレーションをして見せ、説明書を書かせてみた。4つのコツの内(①順序を表す言葉を使う　②数字を使う　③図を描く)は習得済み。が、作り方の文自体は書き直しが少なくなかった。「カメの絵を描いて切り抜く」は前週の学習からすぐ出たが、「厚紙、たこ糸」の名称、「3センチの長さに切る」「糸をストローに通す」「糸をピンに引っかける」「右、左、右、左と交互に糸を引く」「ストローをセロテープで貼る」等、適切な言葉が出なかった。「セロテープ」とくれば「貼る」がでなければ‥‥‥。ポイントとなる言葉や言い回しが使えるまで説明書の書き直しをさせた。

『読んで作れる説明書』が書けたらおもちゃ作りを始めてよいことにしたので、子どもたちは並々ならぬ真剣さ。説明書の書き方はもとより、基礎的な言葉の言い方のよい学習になった。

いかがでしょうか・・・子どもたちががんばっている様子や、先生方の工夫をご理解いただけたでしょうか。

語彙を獲得するためには、英語を日本語に直すのではなく、五感から直接理解することが大切です。夏期休業後には各校で保護者の皆様にも多大なご支援をいただきつつ「カレー作り」や「調理体験」を実施いたしました。

子どもたちには、授業のみならず多くの行事を通し、直接日本語に触れ、多くの語彙を獲得してくれるよう、期待しています。

